



大和市立緑野小学校
学校だより 3月号

みどりの



令和3年2月26日

ある朝の風景より

校長 稲葉 敦子

体育館棟の前にある梅の花も満開になり、メジロなどの鳥が来て盛んに花をついばんでいる様子を見かけ、春らしさを感じます。春になるといろいろな花が咲き、私たちの目を楽しませてくれます。

ある朝、旗振りを終えて西門、南門、正門と門扉を閉じて回っていると、登校を終えて朝の仕度ができた1・2年生が、勢いよく昇降口から飛び出してきました。どこへ行くのかなと見てみると、育てているチューリップなどの球根やパンジーに水をあげに行くため、ペットボトルに水を入れ、自分の植木鉢に向かって一目散に走って行くところでした。短い朝の時間ですが、植物の世話をしている姿を見て嬉しくなりました。

1・2年生の生活科には「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」という学習内容があります。植物は、1日だけ水をあげたのでは成長しません。球根や種を植えてから花が咲いて実や種ができるまで数カ月にもわたって水をあげて育てなくてはなりません。そして、育てる中で「芽がでた。」「茎が伸びてきた。」「もっと日が当たる場所が良い。」など様々な発見があり、「もっと伸びてほしいな。」「早く咲いてほしいな。」などの思いももつようになります。世話を忘れてしまうと植物も元気がなくなったり枯れてしまったりするので、毎日水やりをする中で、植物にも生命があることや成長していることに気が付き、花が咲いた時には、育てる喜びを感じることでしょう。とても大事な学習です。

子どもたちが植物を世話する様子を見ながらこの1年間を振り返ると、植物が成長するように、子どもたちもこの1年間でそれぞれに成長してきたことを感じます。人は、植物のように数カ月ではなく、何十年もかけて大人になっていきます。小学生の時期の子どもたちと毎年過ごせる教員という仕事は、子どもたちの成長に関わることができ、成長を感じることができるとても重要で貴重な仕事です。子どもたちが学び、育つ様子を見ることができると、自分の活力になり、喜びでもあります。この仕事に携わることができて良かったと思える風景でした。

令和2年度も残すところ1か月となりました。1年間の総まとめの時期です。子どもたちの育てているチューリップやパンジーは4月に向けて成長し、きれいな花をたくさん咲かせてくれることでしょう。私たち教員も4月に向けて子どもたちと共に次のステップを目指して進んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、子どもたちをいつも見守り教育活動にご協力くださっている保護者の皆様、地域の皆様、PTAの本部の皆様をはじめとして、委員を引き受けてくださった皆様、には深くお礼申し上げます。